

馬城会の発展のために <sup>(※1)</sup>中第 40 回卒 櫻井 弘 佑 <sup>(※2)</sup>

●馬城会副会長

相馬報徳会会長



恩師松田一 <sup>(※3)</sup> 先生より、本会の常任理事になってくれと頼まれたのは 20 年秋であった。早速、同年暮れに催された忘年会の酒、肴の調達からやらされた。

また、京浜、仙台等の支部の総会に、歴代校長のお伴で行かされたが、汽車賃も自前であった。

しかし、折笠 <sup>(※4)</sup> (一) 会長はじめ

二本松幸三 <sup>(※5)</sup> (二)、渡邊扶 <sup>(※6)</sup> (二)、

桜井孝次郎 <sup>(※7)</sup> (四)、遠藤新 <sup>(※8)</sup> (六)、

齋藤平吉 <sup>(※9)</sup> (八)、高木貞雄 <sup>(※10)</sup> (九) 等々、

吾々にとっては、雲の上の人と思われていた大先輩

方に、やさしく言葉をかけられ、本部での仕事の大変なことをねぎらわれ、二次会につれていかれ、大いに啓発されることが多かった。

一番の思い出は、成田儀六 <sup>(※11)</sup> (十四) さんが会長を辞任され、後を引受ける人がなく困りに困ったことがある。当時地元支部長で、本会の副会長であった水戸正雄 <sup>(※12)</sup> (九) 先生から、東京に行って後任会長を決めて来るよう命ぜられた。

とんでもない、私のような若僧にそんな大役は果せませんと申し上げたところ、何を言うか、君は、俺の言うことを何んでもきくというから、支部長や本部の副会長を引受けたのだ。俺は、君位の歳には相馬地方の大校長だった。と叱られしぶしぶ上京した。

当時、馬城会の大ボスだった高木貞雄 (九) さんに相談、伴われて桑原光雄 <sup>(※13)</sup> (十四) さんを日本橋の東洋ゴム化学本社に訪ね、懇請した。

桑原さんは、本会の総会にも、京浜支部の総会にも必ず出てくれる方で、私も大変親しくしていただいた方、君が私の秘書役をまめにやってくれるならと言って引受けて下さった。

いまふり返って、馬城会の下働きをやって良かったと思っている。私の若い頃、京浜支部等の大先輩方は、何れも大らかで親切だった。

私共も、後輩の面々にやさしい、たより甲斐のある先輩にならなければと思っている。

(※1) 『紅の旗 創立 90 周年記念誌』 (1988 (昭和 63) 年 9 月 2 日発行)

「今こそ伝えたい、希望と勇気を」(OBから若駒への熱きメッセージ) より。

(※2) 旧姓 早川。中村出身。昭和 17 (1942) 年卒。盛岡工専。

- (※3) 中村出身。相中第19回、大正10(1921)年卒。法大。相中教諭：昭和7～16年、国語。中村高女職業學校教諭：昭和16～昭和？。  
中村高女校長：昭和21～？。相高講師：昭和38～41年。馬城かわら版 第201号「思い出のひとつ」。
- (※4) 折笠晴秀。福浦出身。相中第1回、明治36(1903)年卒。卒業生総代答辞。東大(医)。初代馬城会会長。秩父宮の侍医。  
馬城会報第52号(令和5年発行)に記事。
- (※5) 小高出身。相中第2回、明治37(1904)年卒。
- (※6) 浪江出身。相中第2回、明治37(1904)年卒。東大(工)。
- (※7) 浪江出身。相中第4回、明治39(1906)年卒。ニューヨーク大。
- (※8) 福田出身。相中第6回、明治41(1908)年卒。東大(工)。建築家。
- (※9) 中村出身。相中第8回、明治43(1910)年卒。京大(工)
- (※10) 大堀出身。相中第9回、明治44(1911)年卒。
- (※11) 青森県出身。相中第14回、大正5(1916)年卒。東大(法)。第4代馬城会会長。
- (※12) 旧姓 目黒。駒ヶ嶺出身。相中第9回、明治44(1911)年卒。師範。
- (※13) 中村出身。相中第14回、大正5(1916)年卒。早大。第5代馬城会会長。

( 転記&※脚注 村山 )